

## II. 分担研究報告(別紙3)

### 多様化した女性の活躍の場を考慮した女性の健康の包括的支援の現状把握

#### 分担研究報告書

研究分担者 横山和仁 国際医療福祉大学大学院公衆衛生学専攻・教授

順天堂大学医学部衛生学講座・教授

全国健康保険協会(協会けんぽ)各支部(47)に、保険者における女性の健康増進に係る取り組みの事業、女性のがん検診を受けやすくするための工夫、地域との連携、男性の参加促進、についての調査依頼・調査票を送付、返送があった 11 支部の回答をまとめた。

#### A. 研究目的

協会けんぽの女性の健康増進、相談、教育の実施状況を明らかにすることを目的とした。

本は費用負担なしで、鹿児島は 500 円で行っていた。

いずれの健診内容・県も指定病院のみで受診可能であった。

#### B. 研究方法

保険者における女性の健康増進に係る取り組みの調査票を作成、2021 年 10 月に全国健康保険協会(協会けんぽ)47 支部に、調査票を送付、返送された回答をまとめた。

#### 2) 女性の健康相談事業のうち実施しているもの 令和2年度の相談件数(延べ件数)

思春期の心と身体、月経の悩み、若年妊娠・出産、中絶、やせ・ダイエット、性感染症、妊娠・避妊、不妊、メンタルヘルス、更年期症状、乳がん、子宮頸がん、その他のがん検診について、婦人科疾患、泌尿器疾患、DV、虐待、認知症、骨粗鬆症、その他の項目の実施の有無を調査した。

#### C. 研究結果

協会けんぽ 11 支部(茨城、栃木、千葉、新潟、和歌山、広島、香川、佐賀、熊本、鹿児島、高知)からの返信(23.4%)があった。高知については特に女性に着目はせず、男女問わず保険事業を推進ということで、回答自体は得られなかった。

DV 電話相談の実施が 11 件(広島)、件数未把握(新潟)との回答のみであった。

#### 1) 女性の健診事業

女性を対象とした健診について表 1、2 にまとめた。対象年齢は乳がん検診(マンモグラフィー)+ 子宮頸がん検診(スメア方式)は茨城県を除き、いずれも協会けんぽ本部の定めた通りであった。本人の負担額は 1,080~4,938 円であった。また、子宮頸がん検診単独受診(スメア方式)については、年齢は本部の定め通り、負担額は 1,039~2,424 円であった。

なお、骨密度測定検査 3,762 人を、特定健診のオプションとして、熊本は費用負担なしなお、骨密度測定検査 3,762 人を、特定健診のオプションとして、熊

#### 3) 女性の健康講座の実施の有無

千葉支部が、令和1年度のみ実施、その他は未実施であった。

#### 4) 女性の健康に関する冊子、パンフレット又はリーフレット等の作成および配布

以下 3 支部が実施していた。

①「女性の健康管理 ABC」、「子宮がんを予防しましょう」、「乳がんを予防しましょう」(リーフレット)、加入者を対象に健康セミナーにて配布(茨城)。

②「女性のヘルスサポートガイド」(リーフレット)、被保険者対象に配布(新潟)。

③「子宮がんを予防しましょう」、「乳がんを予防しましょう」(リーフレット)、特定保健指導の初回面談時に対象者に配布(広島)。

#### 5) 女性の健康に関するホームページ上の情報提供や啓発活動

①女性のがんについて、全国健康保険協会本部ホームページにて情報提供(茨城)。

②女性の健康について支部メールマガジンにて配信(栃木)。

#### 6) 女性の健康に関する取り組みをどのような指標で評価しているか

評価しているところはなかった。

#### 7) 事業にあたり、厚生労働省のホームページによる健康情報についてどの程度利用しているか

10支店中「時々」7支部、「ほとんど利用していない」3支部であった。

#### 8) 事業にあたり、厚生労働省の「女性の健康推進室ヘルスケアラボ」による健康情報についてどの程度利用しているか

10支店中、「時々」が1、「ほとんど」もしくは「まったく使用していない」が9支店であった。HPの存在を認識していない支部もあった(2支部)。

#### 9) 非常勤やパートの女性が働きながらもがん検診を受けやすくするための工夫

①一部健康機関にて健診の土日実施(栃木、千葉、香川)。

②県内自治体と協力し、協会けんぽが行う「特定健診」と市町村が行う「がん検診」を同時に受けられる「集団検診」を実施している(茨城)。

③自治体と連携した特定健診と乳がん検診の同時実施を自宅近くの公民館等で開催。年度後半、未受診者へ受診勧奨案内送付(新潟)。

④自治体と連携し、特定健診とがん検診の集団検診を開催。土日等の平日以外での開催をしている(和歌山)。

⑤県内各市町と連携し、商業視察等で特定健診とがん検診を同時に実施できるよう調整している(広島)。

#### 10) 女性の健康教育について、男性も参加できるようにしている事業の有無

いずれの支部も行っていなかった。

#### 11) 女性支援事業を実施して効果が感じられたことやうれしかったこと

①R1年度に乳がん触診モデルを使って集団学習を実施したが興味津々であった(千葉)。

②扶養家族の方は女性が多いので、健診会場にて骨ウエーブ等の測定を導入している(和歌山)。

#### 12) 本調査に関する意見、要望

①健康経営を推進している事業所の支援において、女性従業員を対象にした健康講和の要望が年2, 3事業所ある。テーマはがんとメンタルヘルスが多い。また当県の女性の健康課題では、脳卒中罹患者が多いことや被扶養者の健診受診率が低迷していることが挙げられる。特に協会けんぽの被扶養者の多くはパートタイム勤務者であることも想定されるが、その方々の健康受診等に関する現状が把握できていない。パート就労者を取り巻く状況尾が把握できれば、健康行動の促進阻害要因が明確になり、より具体的な策を検討できる。(鹿児島)。

②茨城支部として回答できることは少ないので、本部に事前に確認していただきたいです(茨城)。

確になり、より具体的な策を検討できる。」という意見は重要である。

#### D. 考察および E. 結論

回答率があまり高くなく、断定的なことは言えないが、女性の健康支援としては、健診事業が主体であった。この面では、パートタイム等の働く女性への配慮がなされていた。教育や相談事業の充実が課題であろう。また、男性を対象とした活動の検討が待たれる。厚労省からの情報発信やその活用も期待したい。鹿児島支部からの「パート就労者を取り巻く状況」が把握できれば、健康行動の促進阻害要因が明

#### F. 健康危機情報、G. 研究発表、H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 乳がん検診（マンモグラフィ）+ 子宮頸がん検診（スメア方式）

	対象年齢	本人負担（円）	2020年度受診者（人）
茨城	36～74歳の偶数年齢	1,086-1,686 *	
栃木	40歳以上の偶数年齢	2,125-2,725	乳8,107 子7,679
千葉	同上	1,086-1,686 *	
新潟	同上	2,125-2,725	43,510
和歌山	同上	2,125-2,725	6,258
広島	同上	4,620-6,359	22,012
香川	同上	4,938-6,359	17,839
佐賀	同上	1,086	
熊本	同上	1,080-1,686	15,820
鹿児島	同上	2,725	

\* 茨城、千葉に関しては、50歳以上1,086円、50歳まで1,686円。

表2 子宮頸がん検診単独受診（スメア方式）

	対象年齢	本人負担（円）	2020年度受診者（人）
茨城	20～38歳の偶数年齢	1,039	
栃木	同上	1,039	1,600
千葉	同上	1,039	
新潟	同上	1,039	4,486
和歌山	同上	1,039	622
広島	同上	2,310-2,424	4,729
香川	同上	2,424	1,844
佐賀	20～74歳の偶数年齢	1,039	
熊本	20～38歳の偶数年齢	1,020-1,039	3,762
鹿児島	同上	1,039	

